令和７年９月１日発行

板橋区立板橋第五中学校　学校だより

常に夢や目標をもち
多様性を尊重し主体的に行動する生徒を育成します

小中一貫学びのエリア：板橋第四小学校・板橋第五中学校

校長　太田　繁伸

全国学力・学習状況調査について

長かった夏休みも過ぎてしまえばあっという間で、生徒たちは今日から元気に登校を再開しています。夏休み中は交通事故が１件あり、本校の生徒が気の毒なことにけがをしてしまいました。登校して授業に参加できる程度ですが、完治まで少し時間がかかりそうです。それ以外生徒たちが事件・事故に巻き込まれた等の話は聞いておりませんので、無事に有意義な夏休みを過ごしてくれたようです。

さて、４月に実施した全国学力学習状況調査の結果が届きました。生徒数が少ない学校ですので、データが平均化せず、年度によって多少上がり下がりしておりますが、今年度の結果は相対的にみると良い結果だと思います。数学はとても良かったですし、例年課題が多い国語も随分挽回しました。理科については公開問題の１０問しかデータがありませんので、あまり正確ではないかもしれませんが東京都の平均と同じです。詳しい分析結果は次の通りです。

国語

1. 全体的な学力水準

まず、全体平均正答率から、本校の国語の学力水準を東京都および全国の公立学校と比較します。

- **本校の平均正答率: 55%**
- **東京都の平均正答率: 57%**
- **全国の平均正答率: 54.3%**

この数値から、本校の国語の平均正答率は、全国の平均を 0.7 ポイント上回っていますが、**東京都の平均よりは 2.0 ポイント低い**ことが分かります。これは、全体としては全国平均をやや上回るものの、東京都内での位置づけとしては、さらなる学力向上に取り組む必要があることを示唆しています。

2. 個別の問題と評価の観点から見た傾向

【データから読み取れる主な学習指導要領の内容と評価観点】

提供されたデータは、以下の学習指導要領の内容と評価観点にわたる問題で構成されています。

- **学習指導要領の内容:**
    - **言葉の特徴や使い方に関する事項（ア）**：漢字の読み書き、文法。
    - **情報の扱い方に関する事項（イ）**：（今回の調査には該当する問題がありません）
    - **我が国の言語文化に関する事項（ウ）**：（今回の調査には該当する問題がありません）
    - **話すこと・聞くこと（A）**：表現の工夫、相手の反応を踏まえた発言、話の構成の工夫、話し合いにおける思考の深化、資料の活用。
    - **書くこと（B）**：目的意識を持った文章作成、構成・展開の工夫、表記の確認、語句の用法。
    - **読むこと（C）**：説明的な文章、文学的な文章、複数の資料の読み取り。

- **評価の観点:**
    - **知識・技能:** 言葉の特徴や使い方に関する事項、漢字、文法など。
    - **思考・判断・表現:** 文章や資料の内容理解、意図や効果の考察、表現の工夫、論理的な思考、自分の考えを形成・記述する能力。
    - **主体的に学習に取り組む態度:**（これは問題形式からは直接評価されにくい観点ですが、学習活動全般で評価されます）

【考察される傾向】
個別の問題の概要と評価観点を見ると、以下の傾向が推測されます。

- **基礎的な「知識・技能」は比較的安定している可能性:**
    - 「漢字の読み書き」や「文法的に正しい文を作成する」といった直接的な知識を問う問題は、一般的に正答率が高くなる傾向にあります。全体平均が全国を上回っていることから、これらの基礎的な部分の定着は一定レベルに達している可能性があります。
- **「思考・判断・表現」に課題が見られる可能性（特に記述式）:**
    - 「文章全体と部分との関係をとらえる（記述）」、「複数の資料から目的意識をもって考え、適切に表現の仕方を工夫する（記述）」、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く（記述）」、「文章の内容を多角的に捉え、自分の考えを形成する（記述）」といった、**記述式でより高度な思考力・判断力・表現力が求められる問題**においては、全国や東京都との差、あるいは本校内での生徒間の差が大きくなる傾向があると考えられます。
    - 特に、**学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと（A）」における「自分の考えを明確にする（記述）」や「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」**といった、他者とのコミュニケーションを想定した記述問題は、思考の深さと表現の的確さの両方が問われるため、難易度が高いと考えられます。
    - 学習指導要領の内容「我が国の言語文化に関する事項（ウ）」における**「文章を読み、表現の意図を捉え、自分の考えを形成する（記述）」**のような問題も、現代文以上に読解力と記述力が求められるため、課題となりやすい可能性があります。
- **「書くこと（B）」の記述問題における精緻さの不足:**
    - 「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する」のような、**正確な表記や表現の修正を求める問題**で、本校の正答率が全国平均を下回る傾向が見られた場合（これは今回のデータから推測される仮定です）、基本的な表現の正確性や見直しの習慣に課題があるかもしれません。

総合的な考察と今後の方向性：
本校の国語の学力は、全体平均で全国をやや上回るものの、東京都平均には及ばないという状況です。これは、基礎的な知識は定着しつつも、**文章や情報を深く読み解き、論理的に思考し、それを的確に表現する、より高度な能力の育成に重点を置く必要がある**ことを示唆しています。
特に、以下のような点に焦点を当てた指導が有効と考えられます。

1. **「読むこと」における多角的・批判的思考の育成:**
    - 単に内容を理解するだけでなく、筆者の意図、表現の効果、複数の情報の関連性、異なる視点からの解釈などを深く考察させる授業を増やす。
    - 説明的な文章、文学的な文章、資料など、多様な文章形式に対応できる読解力を養う。
2. **「書くこと」における表現力と論理構成力の強化:**
    - 自分の考えを明確にし、根拠を示しながら記述する練習を徹底する。
    - 「序論・本論・結論」といった文章の構成や、段落間のつながりを意識した論理的な文章作成指導を強化する。
    - 読み手を意識した表現の工夫や、誤字脱字・不適切な表現を見つける推敲の習慣を身につけさせる。
3. **「話すこと・聞くこと」における実践的コミュニケーション能力の向上:**
    - グループディスカッションや発表の機会を増やし、論点を明確にして話す練習、相手の反応を踏まえた柔軟な発言練習を行う。
    - 資料を効果的に活用し、分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を育成する。
4. **「我が国の言語文化に関する事項」における伝統的な言葉や文化への理解促進:**
    - 古文や漢文といった古典の読解においても、単語や文法の知識だけでなく、当時の文化背景や作者の心情・意図を読み解く深い学習を促す。

数学

1. 全体的な学力水準

まず全体平均正答率から、本校の数学の学力水準を東京都および全国の公立学校と比較します。

- **本校の平均正答率: 56.0%**
- **東京都（公立）の平均正答率: 53.0%**
- **全国（公立）の平均正答率: 48.3%**

この数値は、全体として**本校の学力が東京都や全国の公立学校の平均を上回っており、特に全国平均に対しては 7.7 ポイント高い**ことを示しています。これは、本校の数学教育が全体的に高い成果を上げていることを裏付けています。

2. 領域別・問題形式別の詳細分析

データを用いて、本校の強みと課題を具体的に分析します。

領域	本校平均	東京都平均	全国平均	傾向
A 数と式	55.4%	50.8%	45.1%	良好
B 図形	45.6%	55.5%	50.5%	課題あり
C 関数	57.3%	52.4%	48.2%	良好
D データの活用	71.8%	63.0%	58.9%	非常に良好

- **強みとなる領域：**
    - **「データの活用（D)」**と**「関数（C)」**では、本校の平均正答率が東京都・全国を大きく上回っています。特に「データの活用」は、全国平均を 12.9 ポイントも上回っており、本校の突出した強みと言えます。
    - 「データの活用」に関する**問題７（2）**では、正答率 78.3%と、東京都（60.4%）や全国（55.9%）を大幅に上回っており、**不確定な事象を数学的に捉え、判断の理由を説明する能力**が非常に高いことが分かります。
    - 「関数」に関する**問題８（2）**の記述式問題でも、正答率 45.7%と全国平均（38.0%）を上回っており、**事象を数学的に解釈し、解決方法を説明する能力**が高いことが見て取れます。
- **課題となる領域：**
    - **「図形（B)」**では、本校の平均正答率 45.6%が**東京都・全国の平均を下回っています**。特に「図形」に関する**問題３**（外角を求める問題）では、正答率 45.7%と、東京都（58.9%）や全国（58.1%）を大きく下回っており、**基礎的な図形概念の理解に課題**がある可能性があります。
    - 問題９（1）～（3）の証明に関する問題も、正答率が他校と比較して同等かやや低く、**図形における論理的な思考力や証明を構想する力**が十分ではない可能性があります。

3. 問題形式と未回答率に関する詳細分析

- **記述式問題の傾向：**
    - **問題６（3)**（式の意味を読み取り説明する記述式）では、本校の正答率が 63.0%と、東京都（52.5%）や全国（45.2%）を大きく上回っており、**数学的な表現を用いて説明する能力**は非常に高いことが分かります。
    - 一方で、**問題９（3)**（図形の証明を構想する記述式）では、正答率 39.1%と、他校と同程度であり、**図形における証明問題には依然として課題が残っている**ことが伺えます。
- **未回答率の傾向：**
    - 未回答率が最も高いのは**問題８（2)**（運賃の求め方を説明する記述式）の 21.7%、次いで**問題６（2)**（式の意味を読み取り説明する記述式）の 21.7%です。これらの問題は、いずれも「思考力、判断力、表現力」を問う応用的な記述問題です。
    - しかし、注目すべきは、本校のこれらの問題の未回答率が、**東京都（29.6%、21.3%）や全国（35.0%、24.9%）と比較して低いか同程度**である点です。これは、本校の生徒が、難しい記述問題に対しても粘り強く取り組もうとする姿勢を持っていることを示唆しています。
    -

4. 総合的な考察と今後の方向性

本校の数学の学力は、全体として全国平均を大きく上回る非常に良好な水準にあります。

【強み】

- **「数と式」「関数」「データの活用」** といった領域において、基礎的な知識から応用的な思考力・表現力に至るまで、高い学力を有しています。
- **難しい記述式問題であっても、諦めずに解答しようとする意欲や粘り強さ**が見られます。特に、**数と式、関数の説明問題**における表現力は、他校と比較して優れていると言えます。

【課題】

- **「図形」領域が唯一の弱点**となっており、基礎的な概念理解から証明といった応用的な問題まで、全体的に正答率が他校を下回っています。
- 特に、**多角形の外角といった基礎的な知識を問う問題**でつまずいている可能性があり、図形単元に対する苦手意識が一部の生徒にあることが推測されます。

【今後の指導の提案】

1. **図形単元の基礎力強化:**
    - 授業で図形問題を扱う際は、公式や定理を覚えるだけでなく、その意味や成り立ちを図を使って丁寧に説明する時間を増やす。
    - 基礎的な問題から応用的な証明問題まで、段階的に難易度を上げていく演習を充実させる。
2. **証明問題への体系的なアプローチ:**
    - 証明問題を解く際には、「仮定と結論の確認」「証明の構想（どの定理を使うか）」「記述の仕方」といった手順を明確に指導し、論理的な思考過程を可視化させる。
    - 他の領域（数と式など）で高い表現力が見られる強みを活かし、図形の証明でもその力を発揮できるよう、指導方法を工夫する。

理科

1. 全体的な学力水準の傾向

理科は公開問題の 10 問のデータから傾向を分析します。

指標	本校の平均正答率	東京都の平均正答率	全国の平均正答率
平均正答率	51.1%	51.1%	50.8%

- 10 問の平均正答率を見ると、本校は 51.1%で、**東京都の平均と全く同じであり、全国平均の 50.8%をわずかに上回っています**。
- これは、本校の理科の学力が、全体として東京都・全国の公立学校と同水準にあることを示唆しています。突出した強みや大きな弱点はないものの、個別の問題を見ると、得意・不得意が明確に分かれていることがわかります。

2. 領域別・問題形式別の詳細分析

データを用いて、本校の強みと課題を具体的に分析します。

領域	本校平均	東京都平均	全国平均	傾向
A 「エネルギー」を柱とする領域	43.5%	52.0%	51.9%	課題あり

領域	本校平均	東京都平均	全国平均	傾向
B「粒子」を柱とする領域	62.4%	65.0%	63.8%	良好
C「生命」を柱とする領域	27.2%	33.6%	32.3%	顕著な課題あり
D「地球」を柱とする領域	60.9%	36.9%	36.2%	非常に良好

- **突出した強み：**
  - **「地球」を柱とする領域（D）**：問題 1（3）の「地層の性質」に関する問題で、本校の正答率は 60.9%と、**東京都（36.9%）や全国（36.2%）を 24 ポイント以上も大きく上回っています**。この領域の学習内容が、本校の生徒に深く定着していることがわかります。
- **強みとなる領域：**
  - **「粒子」を柱とする領域（B）**：平均正答率は東京都・全国とほぼ同水準ですが、**問題 4（1）**の「気体の密度の大小」に関する問題では、正答率 56.5%と他校を上回っており、**実験結果を密度という概念と関連付けて解釈する力**に強みがあるようです。
- **顕著な課題となる領域：**
  - **「生命」を柱とする領域（C）**：この領域の平均正答率は 27.2%で、**東京都・全国の平均を 5 ポイント以上下回っています**。
  - 特に**問題 7（1）**の「柔毛、肺胞、根毛に共通する構造」を問う問題では、正答率 28.3%と、東京都（36.0%）や全国（34.8%）を大きく下回っています。これは、**複数の生物構造を比較し、共通性を捉えるという総合的な思考力**に課題があることを示唆しています。
- **その他の課題：**
  - **「エネルギー」を柱とする領域（A）**：問題 1（1）の「電気回路と熱量」に関する問題で、本校の正答率 43.5%は、東京都・全国（ともに約 52%）を大きく下回っています。**電流・電圧と抵抗・熱量の関係といった物理分野の基礎知識**の定着に課題がある可能性があります。

3. 問題形式と未回答率に関する詳細分析

- **記述式問題の傾向：**
  - **問題 1（2）**の「課題設定」に関する記述問題では、本校の正答率 41.3%と、他校よりやや低い結果ですが、**未回答率は 4.3%と、他校（7.8%、8.6%）と比較して低い**です。これは、難しい記述問題に対しても、積極的に取り組もうとする意欲があることを示唆しています。
  - **問題 1（6）**の「探究の振り返り」に関する記述問題では、本校の正答率 73.9%と他校より低いものの、**未回答率は 4.3%と他校（9.4%、9.9%）を大きく下回っています**。これは、本校の生徒が、与えられた情報から自分の考えを表現する能力は高いものの、他校と比較するとまだ十分ではないことを示しています。

4. 総合的な考察と今後の改善提案

本校の理科の学力は、全体として平均的な水準にありますが、問題群を見る限り、分野ごとの得意・不得意が明確になっています。

【強み】

- **「地球」領域**の学習内容が非常に深く定着しており、特に地層に関する問題では圧倒的な強みを持っています。

- **「粒子」領域**も比較的得意であり、実験結果から概念を解釈する力が高いです。
- 記述式問題に対しては、**未回答率が他校より低く、積極的に解答を試みようとする意欲**が見られます。

【課題】

- **「生命」領域**と**「エネルギー」領域**に課題があります。特に、**複数の事象を比較して共通性を導き出す**「生命」領域の思考力**に大きな弱点があります。
- **物理分野の基礎知識**（電気回路と熱量など）の定着が不十分な可能性があります。
- **「思考力・判断力・表現力」** を問う問題では、選択式で正答率が低下する傾向が見られます。

【今後の指導の提案】

1. **「生命」領域の学習強化:**
    - 授業で生物の構造を扱う際は、単一の事象だけでなく、複数の生物や器官を比較させ、共通点や相違点を考えさせる演習を増やす。
    - 図や表を用いて、構造と機能の関連性を整理させる活動を取り入れる。
2. **「エネルギー」領域の基礎固め:**
    - 電気回路や熱量といった概念を、実験を通して体感させる機会を増やす。
    - 単なる公式の暗記ではなく、「なぜそうなるのか」という因果関係を説明させる指導を徹底する。
3. **探究的な学習の継続と質の向上:**
    - 記述問題での未回答率が低いという強みを活かし、探究の過程を言語化する練習をさらに継続する。
    - 他校を上回る未回答率の低さは、本校の探究的な学習に対する積極性を示唆しています。この強みをさらに伸ばしていくことで、思考力・表現力のさらなる向上が期待できます。

学習状況調査

１．生活習慣・学習習慣に関する考察

良い点

- **睡眠習慣の安定**：
    - 質問⑵「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」で「している」と回答した生徒が45.7%と、東京都⑶2.4%⑷や全国⑶4.0%⑷を大きく上回っています。これは、規則正しい生活習慣を維持しようとする生徒が多いことを示しており、学力向上や健康維持にプラスに働く可能性が高いです。
    - 質問⑶「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」でも「している」が 56.5%と、他地域をわずかに上回っています。

悪い点・改善すべき課題

- **朝食を摂らない生徒の割合**：
    - 質問⑴「朝食を毎日食べていますか」で「全くしていない」と回答した生徒が 4.3%と、東京都⑵.9%⑷や全国⑵.6%⑷よりも高いです。朝食の欠食は、集中力や学習意欲の低下につながる可能性があるため、改善が必要な課題です。
- **読書習慣の不足**：
    - 質問⑵1「読書をしますか」で「全くしない」と回答した生徒が 60.9%と、東京都⑶6.3%⑷や全国⑷1.8%⑷を大幅に上回っています。これは、読書習慣の欠如が深刻であることを示しています。

- 質問(24)「読書は好きですか」でも「当てはまる」の割合が15.2%と低く、読書に対する関心が低いことが伺えます。
- 質問(22)「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」でも「0〜10 冊」が他地域より多く、「26〜100 冊」以上が少ないことから、家庭環境も影響している可能性があります。
- 読書量の少なさは、語彙力や読解力の低下、さらには思考力の育成にも影響を及ぼすため、早急な対策が必要です。

2．心理・社会性に関する考察

良い点

- **高い自己肯定感と教員との良好な関係**：
  - 質問(5)「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」が 52.2%と、他地域（東京都 44.3%、全国 40.7%）より非常に高いです。
  - 質問(6)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で「当てはまる」が 58.7%と、他地域（東京都 44.6%、全国 46.6%）を大きく上回っています。
  - これらの結果から、本校の生徒は自分自身に自信を持っており、それを先生から認められていると感じている生徒が他地域よりも多いことがわかります。これは、生徒の成長を促す上で非常に良い基盤です。
- **学校生活への満足度**：
  - 質問(12)「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」が60.9%と、他地域（東京都 46.4%、全国 45.6%）より突出して高いです。
  - 質問(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」でも「当てはまる」が50%と、他地域（東京都 33.9%、全国 31.4%）を大きく上回っています。
  - これらの結果は、本校の生徒が学校生活や学習活動に非常に満足していることを示しており、生徒と学校、教員との間に信頼関係が築かれている証拠と言えます。

悪い点・改善すべき課題

- **他者への積極的な支援意識の低さ**：
  - 質問(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか」で「当てはまる」と回答した生徒が 26.1%と、他地域（東京都 37.5%、全国 37.9%）より低いです。
  - 一方で「どちらかといえば、当てはまる」が 73.9%と非常に高いことから、「困っている人を助けたい」という意識は持っているものの、積極的に行動に移すことにためらいがある可能性があります。
  - **改善策**: 授業や学校行事を通じて、具体的な実践の場を増やすことが効果的でしょう。例えば、グループワークで役割分担を明確にする、地域ボランティアに参加するなどです。
- **いじめに対する意識のばらつき**：
  - 質問(9)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で「当てはまる」が 65.2%と、他地域（東京都 73.9%、全国 77.1%）より低いです。
  - 「どちらかといえば、当てはまらない」や「当てはまらない」と回答した生徒も一定数存在するため、いじめに対する意識の統一を図ることが重要です。

３．学習活動に関する考察

良い点

- **高い学習時間と ICT 活用意識**：
  - 質問(17)「学校の授業時間以外に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「3 時間以上」が 28.3%と、他地域（東京都 13.5%、全国 9.9%）を大きく上回っています。これは、生徒が高い学習意欲を持っていることを示しています。
  - 質問(18)「PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」でも、「30 分以上」と回答した生徒の合計が 80.4%と高く、ICT 機器を積極的に学習に活用していることがわかります。特に「3 時間以上」「2 時間以上」の割合は他地域を大きく上回っており、この点は本校の大きな強みです。
  - 質問(28)「授業で ICT 機器をどの程度使用しましたか」でも「ほぼ毎日」の合計が 95.7%と圧倒的に高く、学校全体で ICT 教育が進んでいることが明確に示されています。

悪い点・改善すべき課題

- **国語に対する苦手意識**：
  - 質問(44)「国語の勉強は得意ですか」で「当てはまる」が 8.7%と低く、「当てはまらない」が 32.6%と他地域（東京都 13.6%、全国 13.5%）を大幅に上回っています。
  - 質問(50)「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えていますか」や質問(51)「文章を書いた後に読み返して整えていますか」でも「あまりしていない」と回答した生徒が他地域より多く、国語の授業内容を十分に活かせていない可能性があります。
  - **改善策**: 読書習慣の不足と合わせて、国語の苦手意識を克服するための指導が求められます。単に知識を教えるだけでなく、文章作成や論理的思考を養うための具体的な活動を授業に取り入れることが重要です。
- **学習内容の定着と活用への課題**：
  - 質問(36)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計は他地域と比べて遜色ありません。しかし、質問(35)「学級の生徒との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」で「当てはまらない」の合計が 21.8%と、他地域(12.5%)より高いです。
  - このことから、個人の振り返りはできているものの、他者との対話を通じて思考を深めるという学習活動が不十分な可能性があります。
  - **改善策**: 授業中にグループワークやペアワークをより積極的に取り入れ、他者と意見を交換する機会を増やすことで、思考力や表現力を養うことが期待できます。

まとめ

本校の生徒は、**生活習慣（特に睡眠）や学習意欲、自己肯定感、学校満足度、ICT 活用において非常に高い水準**にあることが、今回の調査で明らかになりました。これは、学校がこれまで取り組んできた教育活動が実を結んでいる証拠であり、大きな強みと言えます。

一方で、**朝食の欠食、読書習慣の不足、国語への苦手意識、他者と協力して思考を深める経験の不足**が課題として浮き彫りになりました。これらの課題は、互いに影響し合っている可能性が高く、特に読書習慣の定着は、国語力の向上や他教科の理解にもつながるため、最優先で取り組むべき課題と考えられます。

以上が学力学習状況調査の結果です。今回の結果を参考に、授業の見直しや普段の生徒指導の見直しを行い、生徒たちにとって有意義な学校生活となるよう、尽力してまいります。

今月の予定

日	曜日	時程	学校行事予定
1	月	A	始業式　避難訓練(引き取り訓練)　再登校14:00
2	火	A	給食始　7年移動教室前検診　⑤⑥7年移動教室事前指導 ⑥8年職場体験事前指導
3	水	B	7年移動教室始 8年職場体験始　　カウンセラー出勤日
4	木	B	7年移動教室 8年職場体験
5	金	B	7年移動教室終 8年職場体験終　　カウンセラー出勤日
6	土		
7	日		
8	月	A	昼ダンス　ダンス実行委員会、運動会実行委員会
9	火	A	昼ダンス　ダンス実行委員会、運動会実行委員会
10	水	A	昼ダンス　専門委員会、中央委員会　　カウンセラー出勤日
11	木	A	昼ダンス　学校公開、学校説明会2 15:30～
12	金	A	⑥生徒会役員選挙
13	土		氷川神社祭礼
14	日		氷川神社祭礼(神輿)
15	月		敬老の日
16	火	A	全校朝会　安全指導･点検　昼ダンス　運動会実行委員会
17	水	B	教育相談(昼休みあり)　　カウンセラー出勤日
18	木	B	教育相談(昼休みあり)　貧血検査･生活習慣病予防検診13:20～
19	金	B	教育相談(昼休みあり)　⑥ごっちゃんタイム
20	土		
21	日		
22	月	B	①7年生(金⑤の授業)　教育相談(昼休みあり)　　カウンセラー出勤日
23	火		秋分の日
24	水	A	中間考査
25	木	A	中間考査　④運動会全体練習
26	金	B	9年領域別診断テスト ⑥運動会全体練習 英検 脊柱側彎症検診13:20～ ICS(PM)　　カウンセラー出勤日
27	土		
28	日		
29	月	B	教育実習始　①運動会全体練習　②9年学練　④7年学練　放課後練習
30	火	B	水泳指導(終)　放課後練習

来月(10月)の主な予定

11日(土)運動会　24日(金)入試説明会　27日(月)①板五検定(国語)
27日(月)～11月4日(火)9年生三者面談期間

生徒の活躍

バドミントン

第 78 回板橋区民バドミントン大会(中学生の部)　男子シングルス2部　第3位

ソフトテニス部

第 75 回東京都中学校ソフトテニス選手権大会　男子団体戦出場　男子個人戦出場
女子個人戦出場

夢限大 CUP 夏季新人大会　1 年男子 Group1 優勝
Group2 優勝

吹奏楽部

第 65 回東京都中学生吹奏楽コンクール　銀賞